

『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳に見える文化の 翻訳に関する研究 [論文要旨及び審査の要旨]

著者	屈 豎萌
発行年	2022-09-20
学位授与機関	関西大学
学位授与番号	34416甲第887号
URL	http://hdl.handle.net/10112/00027652

[10]

氏名	くつ じゅほう 屈 豎萌
博士の専攻分野の名称	博士（文化交渉学）
学位記番号	東アジア文化博第 86 号
学位授与の日付	2022 年 9 月 20 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳に見える文化の 翻訳に関する研究
論文審査委員	主査教授 奥村 佳代子 副査教授 沈 国威 副査教授 石崎 博志

論文内容の要旨

本研究は、黒柳徹子著『窓ぎわのトットちゃん』の 15 人の翻訳者による中国語訳版 22 種類を対象に、個々の翻訳者に焦点を当て、特に文化的特徴を有する言葉をそれぞれどのように翻訳し、中国人読者に伝えようとしたのかを調査、分析し、中国語訳版の翻訳方法の変遷を整理し、翻訳方法の変化が、地域、年代だけでなく、翻訳者の異文化理解に大きく影響されることを証明しようとしたものである。

本論文の構成は以下のとおりである。

序章

第一節 『窓ぎわのトットちゃん』とその訳本の概況

0.1.1 世界での翻訳状況

0.1.2 中国語訳本の概況

第二節 『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳本の展開

0.2.1 訳本における序文、訳者の話、編集側の説明について

0.2.2 大陸における『窓ぎわのトットちゃん』の展開

0.2.3 台湾における『窓ぎわのトットちゃん』の展開

0.2.4 まとめ

第三節 先行研究と研究目的

0.3.1 日本原作に関する研究

0.3.2 中国語訳本に関する研究

0.3.3 問題提起と研究目的

第一章 『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳本の翻訳方法

第一節	文学作品の翻訳方法
第二節	『窓ぎわのトットちゃん』の翻訳方法
第二章	題名の翻訳
第一節	書名の翻訳
第二節	目次の翻訳
2.2.1	目次の翻訳状況
2.2.2	訳者の翻訳特徴と各翻訳方法の使用状況
第三章	中国語訳における言葉遊びの翻訳
第一節	言葉遊びと言葉遊びの翻訳
第二節	「子供誤音」の翻訳
3.2.1	原語の発音の特徴を無視する場合
3.2.2	原語の発音の特徴を重視する場合
3.2.3	各翻訳方法の使用状況
第三節	結語
第四章	中国語訳における俳句の翻訳
第一節	俳句と俳句の翻訳について
第二節	『窓ぎわのトットちゃん』に登場した俳句
第三節	中国訳本における俳句の翻訳
4.3.1	形式の翻訳
4.3.2	押韻の使用
4.3.3	内容の翻訳
4.3.4	趙玉皎の2003年版と2018年版における俳句翻訳の異同
第四節	結語
第五章	中国語訳における「文化」の翻訳
第一節	「文化」と「文化」の翻訳
5.1.1	「文化」について
5.1.2	「文化」の翻訳
第二節	原作に登場した「文化」関連の言葉
第三節	中国語訳本における文化関連の言葉の翻訳
5.3.1	物質文化に関する言葉の翻訳
5.3.2	社会文化に関する言葉の翻訳
5.3.3	民俗信仰に関する言葉の翻訳
5.3.4	言語文化に関する言葉の翻訳
5.3.5	訳者の翻訳特徴と翻訳方法の使用状況
5.3.6	数回登場する同一の文化関連の言葉の翻訳
第四節	結語
終章	
第一節	研究全体の総括

1 翻訳方法

2 訳者の翻訳特徴

第二節 結論

参考文献

付録

付録一 目次の翻訳方法の分類

付録二 俳句内容の翻訳方法の分類

付録三 文化関連の言葉の翻訳方法の分類

付録四 重複に出現する文化関連の 11 語

序章では、原作の紹介と、翻訳状況の調査結果を提示した上で、中国語訳版が翻訳文学または児童文学として中国社会でどのように位置付けられているかを指摘し、児童のための教育書としての『窓ぎわのトットちゃん』という側面から、その翻訳特徴を捉え直すとする基本的な視点を明確に打ち出し、先行研究と本研究との相違点を説明している。

第一章では、文学作品の翻訳手法を概説的に述べた上で、『窓ぎわのトットちゃん』中国語版の翻訳手法は大きく、直訳、意識、移植、説明、削減、省略、音訳、意識+音訳、注釈の 9 種類に、その下位分類として、直訳、意識、移植、音訳のそれぞれに注釈を加えた 4 種類に分類できるとした。

第二章では、『窓ぎわのトットちゃん』の本文以外の部分、具体的には書名と目次の訳し方について、どのような翻訳手法が用いられているかを整理し、書名と目次には直訳、移植、意識の手法が用いられており、本文の内容を反映させた適切な翻訳がなされているということを確認した。

第三章から第五章は、文化の翻訳に関する分析に該当する。

第三章では、日本語の特性が活かされた言葉遊びが中国語にどのように訳されているのかに焦点を当てている。まず、言葉遊びにはどのようなものが含まれるのかを説明した上で、「言い間違い」や「スペルミス」のような滑稽さや可笑しみを含みもつ言語表現を、子供が無意識のうちに発する、特徴的な言葉遊びとして捉え、「子供誤音」と呼び、原語（日本語）の発音の特徴を無視した翻訳、原語の文字面の意味を重視する翻訳、原語の発音の特徴を重視する翻訳、意識の 4 種類に分類し、「子供誤音」の持つ音声面の面白さだけでなく、意味を伝えようとする点も重視されていることを指摘した。

第四章では、原作に登場する俳句がどのように翻訳されているのかを分析している。15 人の翻訳者のうち大半を占める 1980 年代の翻訳者による翻訳は俳句の形式を忠実に再現してはならず、2000 年代以降の翻訳者は少数ではあるが俳句の形式的な特徴や内容を読者にそのまま伝えようとする傾向があると指摘した。

第五章では、日本固有のものを表す 56 語を日本文化を伝える語として抽出して、物質文化、社会文化、民俗信仰、言語文化に分類し、翻訳者の立場からは、訳語の選択と翻訳手法の選択の理由を考察した。また、読者の立場から、読者が訳語を通して日本の文化を正しく理解できるかどうかという点について検討した。

終章では、各章の考察を振り返り、振り返ってみながら、『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳における日本文化の翻訳の様々な様相をまとめて提示した。

論文審査結果の要旨

本論文は、すでに出版された全ての中国語訳『窓ぎわのトットちゃん』（15人の翻訳者による22種類の中国語訳版）を取り上げ、特に文化的な要素を含む語の翻訳状況を調査し、それによって得られた詳細な調査結果をまとめたものである。大陸版、台湾版ともに調査対象としており、書籍の収集からデータ作成に至るまで大きなエネルギーが費やされている。

翻訳者一人ひとりの翻訳状況を丹念に調査し記述することによって、40年近くにわたる中国における『窓ぎわのトットちゃん』翻訳を概観することが可能であり、近年多数翻訳されている村上春樹や東野圭吾をはじめとする現代日本文学作品の中国語訳の翻訳状況と併せて考察対象とすることによって、日本語と中国語の対照研究の成果、あるいはより大きな日中対訳語彙データの一部となりうる可能性を秘めており、今後の文学作品における日中対照研究への貢献を期待することができる。

詳細な語彙調査に終始しており、大局的な見方や、目標言語である中国語の特徴や本質に関する視点が欠如しているという点は否定できないものの、今後の更なる研究のための基礎データとしての役割を果たしうる労作であると評価できる。

よって、本論文は博士論文として価値あるものと認める。